

【様式 1】
令和 6 年度

児童生徒と向き合う時間の確保とワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

【夢が丘中学校】

取組目標	目標達成に向けた具体的な取組	10 月末までの取組状況	成果	課題
1 勤務時間の適正化を推進	『定時退勤日』『ノー部活デー』の完全実施 - 会議の効率化 - 学校行事の精選 - ICT、校務支援システムを活用した業務の効率化 - GPH100、いきいき運動部活動等を活用した取組の推進 - 教職員自身のタイムマネジメントの確立を推進	- 出張が多く、ワークライフバランスを意識したタイムマネジメントの達成が難しい状況がある。 - ノー部活デー（平日及び休業日に 1 日）は昨年度に引き続き、守る意識も高く、定着している。 2 学期は、学校行事が多く休日実施する新入大会の振替休日が取りにくい状況がある。 - 校務支援システムの継続的な活用により、ペーパーレス化が定着している。	- 定期考査期間は、12:00 下校としているが、採点や成績処理等の時間が確保でき、ゆとりが生まれた。 - 学校評価においては、多忙な中ではあるが、ワークライフバランスへの意識改善が少し見られた。 - 保護者アンケート等の電子化に取組み、集計処理の改善ができた。	- ノー部活デーの定着はなされているが、年々業務が増加傾向（ICT 活用・調査関係等）にあるように感じる。そのため、更なる業務改善として、ノー部活デー以外にも、効率よく部活をしない日を設ける必要がある。 - 昨年度に引き続き、校務分掌上の引き継ぎや連携により、仕事の効率化を図る必要がある。
2 健康・福祉の確保	- 計画的な年次休暇の取得を推進 - 各種休暇制度等の周知 - 家事・育児への参画等がしやすい勤務環境の整備 - 風通しのよい職場づくりの推進	- 夏休み中に年次休暇を計画的に取得することができている。 - 職場の中に、家族の介護や育児のための休暇を取得しやすい雰囲気ができている。	- 昨年度に引き続き、各種休暇制度の活用がなされて、休暇を計画的に取得することができている。 - 年間 10 日以上年次休暇の取得率が 4 割で、昨年（3 割）よりは休暇の取得者が増えている。	更なる職員間の協働体制の構築により、休暇の取りやすい職場づくりに継続して取り組んでいく。